

COLUMN

舗装道路で流通や生活を改善



案件名 地方道路整備事業

パラグアイでは全道路の8割近くが未舗装で、雨季には状態が悪くなり、ときに寸断されてしまう。主要産業の農畜産業で流通が滞り、住民の多くが学校や病院などに行くことができなくなるため、地方部での早急な道路整備が望まれていた。

そこで同国の公共事業・通信省とJICAが協力し、東部3県にまたがる約150キロの道路の舗装と、老朽化していた27の橋梁の架け替えを実施。交通量や農産物の生産量、公共施設の有無などを基準に、地元の行政や住民の意見を聞きながら整備の優先順位を決めた。これにより交通量は6割増え、走行時間は4割短縮。一年を通して農産物がいち早く市場に届けられるようになり、地域の収入向上や市場の活性化、医療や教育へのアクセス改善など、大きな効果が上がっている。



未舗装の赤土の道路が多く、雨が降るとぬかるんでしまう。

砂や小石(礫)を敷き詰めて舗装した道路。雨でも水がたまず、路面が安定している。

AFTER

卒業!

STEP 3

小規模ビジネスによる生計向上



上: 開業支援の研修には、大勢の女性が集まった。
下: プロジェクトを通して起業しパン店を始めた。

社会統合副省 副大臣補佐官
ミルタ・マラディアガさん

「2021年にはさらにモデル世帯を増やしていきます。そのためにも、ホンジュラス国内の多くの機関と協力してプロジェクトを進めていきます」

ホンジュラスに広がる
ACTIVOモデル
88市で普及

Honduras
中南米と手を携えて CASE2 ホンジュラス

三つのステップで
貧困から“卒業”

5人にひとりが貧困層というホンジュラス。政府からの給付金をきっかけに生計向上を図り、貧困から“卒業”するモデルが生まれ、いま全土に広がっている。

案件名 金融包摂を通じたCCT受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト
2015年2月～2020年4月

STEP 2

金融機関への貯蓄の実践



目標を立てて
しっかり貯蓄



上: 金融機関と連携して貯蓄奨励活動を実施。
左: 貯蓄を習慣化するために貯蓄額の目標を決めてシートに書き込む。

STEP 1

家計管理導入

家計簿で
お金の流れが
一目瞭然!



家計簿のつけ方を学ぶ家計管理研修。

ホンジュラス信用組合連合会
財務部長
フレディ・モラデルさん

「プロジェクトに取り組み1年が過ぎました。特に金融教育をサポートしたいと思い、金融教育や起業家育成の専門家を選任しました」



クトでは三つのステップで貧困からの「卒業」を目指した。第1のステップは家計管理だ。受給者の大半が家計を預かる女性であることから、まずなににいくら使っているのかが一目でわかるよう家計簿をつけて家計管理を学ぶ研修を開催した。中には、コーラやお菓子に多くのお金を使っていることに気づき驚く人もいたという。

第2のステップは貯蓄。家計管理ができれば、貧困世帯でも貯蓄が可能になる。「貯蓄を習慣づけて先々の出費に備えることで、不安定な収入でもある程度は生活していけることを理解してもらいました」。同時に地域の金融機関に協力を仰ぎ、金融教育や金融機関がない地域への出張口座開設を実施。また口座開設に必要な預け入れ金の引き下げを促し、貯蓄しやすい環境づくりを行った。

卒業モデルが完成

最後のステップは、貯蓄を活用した小規模ビジネスの立ち上げだ。挑む事業はパン店や理容業、住宅用洗剤の宅配などさまざま。「自分でためたお金の力で真剣さが違います。たとえ失敗しても、貯蓄の習慣ができていたので次の挑戦も可能です」と塚本さん。女性が事業に取り組むことで世帯収入が増え、社会とのつながりや自立を促す効果も生まれている。

あわせて、金融機関には低所得層向けの小規模融資商品の開発を依頼した。全国85の信用組合を統括するホンジュラス信用組合連合会(FACACH)の財務部長のフレディ・モラデルさんは、信用組合が持つ相互扶助の精神から協力したと話す。「プロジェクトで開発した小規模融資と起業家融資は私たちにとても重要な事業となりました。金融機関として起業家の教育や訓練にも関わり、貧困から抜け出す人を増やしていきます」。これまでに1万3000件以上の貧困層に向けた融資が実現している。

この「卒業」モデルは、現地でACTIVOという愛称で呼ばれている。ホンジュラス政府はACTIVOの効果を認め、19年から全国に広げている。担当省庁である社会統合副省の副大臣補佐官ミルタ・マラディアガさんは「わずかな収入でもきちんと管理すれば、小規模なビジネスでそれを増やせることがわかりました。貧困世帯のケアを行うソーシャルワーカーや金融機関、NGOなどとの連携を強めて、ふたたび受給者が貧困状態に戻らないように協力していきます。今は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあって事業が滞りがちですが、しっかりと進めていきます」と力強く語った。

*2 「Ahorro, Cuenta financiera, Trabajo e Ingreso para la Vida Optimizada(よりよい生活のための貯蓄、口座、労働、収入)」の略語(スペイン語)。アクティブに資産を形成しようという意味を込めている。

収入の不安定さを解消

JICAからプロジェクトを委託された「かいはつマネジメント・コンサルティング」社の塚本明広さんは、「同国の貧困世帯の特徴は不安定さです」と話す。「彼らはまったく仕事がないわけではなく、安定した職がない人が多く、月々の収入に差があります。農家も収穫期とそうでない時期で収入が異なります。それなのに、CCTを受け取ったために衝動買いをしてしまったり、食品を買って過ぎてロスを出してたり…。お金を計画的に使っていない人が結構多いんです」。そうした状況を受け、プロジェクト

1日およそ1・9ドル(約214円)未満で暮らす人が人口の約16%を占めるホンジュラス。最貧困層の貧困脱却を図るための生活保護にあたる条件付き給付金(CCT)はあるが、受給後も貧困から抜け出せない世帯もあった。「CCTを効果的に活用し、極度の貧困から抜け出す仕組みづくりに協力してほしい」という同国からの要請を受け、2015年からJICAの事業が始まった。対象は五つの市でCCTを受け取る約2000世帯。さまざまな国で貧困削減手法として使われてきた「卒業」モデルのホンジュラス版の作成と普及に目標を定めた。

*1 出典: 世界銀行、2018年(金額は2011年の購買力平価に基づく)。